

# 令和5年度 自己評価結果公表シート

令和6年4月  
社会福祉法人 三愛福祉会  
きむら伊奈保育園

## 園概要

平成28年4月に開園し、今年度7年目となる。地域の方にもご理解を頂きながら、暖かい雰囲気の中で、保護者の皆さまと共に歩むことができている。

## 法人理念

一人ひとりの子どもが  
心より愛されていると実感し  
安心した日々を過ごし  
生きる力、将来への夢と希望が  
支えられ育まれる  
子育てを通してすべての人々の  
自己実現をねがい  
ニーズを先駆的に取り組み  
ともに歩み  
未来を創っていく

## 私たちの価値観

- ・常に最高の教育・保育内容を学んでいきます。
- ・日々最高の教育・保育実践を追求していきます。
- ・子ども、保護者、職員、地域の笑顔を作ります。
- ・地域社会の幸せに貢献します。

## 私たちの目標

1. 持続的成長法人を目指します。
2. 心からのファンを持つような、地域から支持の高い法人を目指します。
3. 職員とその家族が誇れる、職員満足の高い法人を目指します。
4. 自法人らしさを大切にしていると思われる、個性あふれる法人を目指します。
5. 地域や社会からなくてはならないと思われる法人を目指します。

## 一人ひとりが大切にすること

- ①コミュニケーションを通して、開かれた正直な人間関係を構築しよう。
- ②チームで創り上げる力、お互い様の気持ちを育てよう。
- ③情熱と継続する意志を持とう。
- ④成長と学びを追求しよう。
- ⑤謙虚さを忘れずに。
- ⑥変化を受け入れて、前向きに原動力としよう。
- ⑦心をオープンに、創造的に。
- ⑧笑顔と楽しさ、ちょっとした遊び心を大切にしよう。

## 基本理念

安心そして信頼すべては子どもの最善の利益のために

## 基本方針

- ・子ども達が望ましい未来を作り出す生きる力の基礎を培います。
- ・愛情いっぱいにあたかく受容し、信頼感や自己肯定感を育てていきます。
- ・日光、空気、土と水を大切に、子どもが育つ場にふさわしい施設設備に努めます。
- ・一人ひとりの子が、力いっぱい、精いっぱいの生活ができる楽しい園づくりを目指します。
- ・保護者や地域の人達に好かれ、信頼され、地域の団体や諸機関にも開かれた園づくりを目指します。
- ・地域社会の一員として園に関わるすべての人々の自己実現につながる活動を目指します。

## 保育目標

友達と仲良くできる子            からだの丈夫な子  
一生懸命がんばる子            よく考え行動する子  
思いやりのある子

「たくましい体と心豊かな子どもの育成」をめざして子ども一人一人が、  
楽しく充実した園生活が送れるように努力する。

## 今年度重点的に取り組む目標

### ◎保育の質の向上

#### ・保育内容

子ども主体の保育

多様性を認め合う保育

保育のプロセスを見える化

#### ・保育環境

自分で選択をする機会を多くつくる

安心して過ごす

#### ・人材育成

働きやすい職場環境をつくる

#### ・組織運営

クレドの共通理解と浸透を図る

### ◎保護者・地域共育

#### ・みんなが笑顔でホッとできる園づくり

笑顔で気持ちよく日々のコミュニケーションを楽しめる人と人の繋がり

#### ・子育て支援

子育ての素晴らしさを共有する

#### ・地域資源の活用

地域の方々との繋がりを深める

#### ・パパママ先生の受け入れ

安心して子どもを園に預けることができる機会を設ける

### ◎業務、オペレーション改善計画

#### ・働きやすい職場づくり

職員満足度の高い職場環境の構築から、保育の質の向上そして子どもの最善の利益へと繋げる

#### ・職員の負担軽減について考える

### ◎SDGs

地球の問題について考える機会を設ける

評価項目別の達成及び取組状況

項目	取組状況
基本理念・基本方針・保育目標を認識し、職員間の共通認識を図る	基本理念・基本方針・保育目標・クレドは、園内の目につく場所に掲示している。またクレドについては、朝礼の議事録に毎日一項目ずつ掲載し共有を図るとともに、職員研修の際に読み合わせをするなど、日々意識をして保育に取り組めるよう努めている。
保育・教育内容	<p>昨年度に引き続き以下の内容を園の事業目標として掲げ、職員全員で意識をして日々の保育に取り組んだ。</p> <p>定期的クラスごとに「どのような保育を行ったか」「どのような子ども達の姿がみられたか。」アンケート調査を実施。各学年の保育内容について、職員会議や職員研修で共有を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども主体の保育：一人ひとりの子どもに『自ら考え行動する力』を育んでもらうため、子どもが自分でやりたいことを見つけて遊びや活動を展開できるような環境を整え関わり方を工夫した。</li> <li>・多様性を認め合う保育：『みんな違ってみんな良い』の意識づけ。それぞれの違いを受け入れて一人ひとりの良さが活かされるよう、子どもに対する言葉かけや対応の仕方などを工夫した。</li> </ul>
保育の質を向上させる会議・研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月に1回の各学年・ポジションごとの省察会議では、クラスやポジションの状況や課題を把握するとともに、日々の子どもの姿から支援の仕方や環境構成などについて共有・調整を図った。また、気になる子や気になる家庭の対応についても連携をしながら日々の保育に取り組んだ。</li> <li>・主任会議、副主任会議、給食会議、看護会議、安全衛生委員会で日々の気づきについて取り上げることで改善を図り、安全で安心できる園運営に努めた。</li> <li>・園内研修では、園長・主任・副主任・看護師が講師となり、その時々に必要な内容について共有を図った。また、外部研修にも可能な限り職員に参加を促し、良い内容については保育の中でも活かせるように参加をした職員からフィードバックを行った。</li> </ul>
保育計画への職員間の共通理解を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育計画の深化・承認を行い、各クラスの子ども達の姿からクラスにあった、また子ども一人ひとりに合った計画となっているか確認を行った。クラス編成が各学年1クラスずつなので、園庭で遊ぶ際や合同保育など、連携をしながら日々の保育に取り組む、職員全員で一人ひとりの健やかな育ちを支えた。</li> <li>・クラスの気になる子や家庭については、省察会議や主任会議などで今後の対応について協議をし、必要に応じて保護者面談を実施。他機関との連携も図ってきた。また、毎月の職員会議でも情報を共有し、共通理解のもと保育を進めていけるよう努めた。</li> </ul>
危機管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回のヒヤリハット研修では、事例をもとに自園において同じようなことが起こらないように、全職員で「原因は何か」「どんな危険が考えられるか」「再発防止策はなにか」考える機会を設けた。</li> <li>・安全衛生委員会では、園内の安全衛生に関わる課題を出し合い一つひとつ解決に向けて取り組んだ。</li> <li>・消防署に依頼し応急救命の処置法や心肺蘇生法を学び、職員研修では緊急時の対応や不適切保育などについて職員全員で共通理解を図った。</li> </ul>
保護者とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の5月から新型コロナウイルスが5類に移行されたことで、少しずつコロナ禍前の保育のかたちを取り戻すことができている。それまで人数制限をしていた行事も人数制限をなくし、家族の皆さんが園にお越しになる機会も多くなることになった。</li> <li>・中止していたパパママ先生の受け入れも再開した。職員・子ども達そして園の保育について保護者に理解していただくことも良い機会となった。</li> <li>・日々の子ども達の姿や行事の様子など、写真や動画を配信して保護者に伝えた。園で過ごす子ども達の姿をみていただくことで安心につながったのではないと思う。</li> <li>・保護者アンケートを6月と9月に実施した。保護者の困っていることや心配なことを把握し連携することで、信頼関係の構築に繋がった。</li> </ul>
地域との交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスが5類に移行されたことで、地域の読み聞かせサークルやウクレレサークルの皆さんを園に招待することができた。また『おいらほり』や『もちつき』『クリスマス会』などの行事にもご協力をいただいた。地域の中の保育園そして子ども達というあたかな思いを感じることができた。</li> <li>・年長組が近隣の小学校に出向き、小学校の生活について教えてもらうため1年生の授業に参加した。また、近隣の中学校の合唱部の皆さんが園に訪れ、歌を聞かせてくれた。地域の方々との距離が更に縮まった1年だった。</li> </ul>

## 職員一人一人が自己評価をしてみたの総合評価結果

5月にキャリアコンパスシートを用いて全職員、項目ごとに自己評価を行った。そして、自己評価したものの中から2項目選び、『今年度の目標』と「目標達成のための具体的な計画」を園長・育成面接者と面談のうえ各自が設定し、2023年6月から12月にかけて取り組んだ。

保育総合3以下の職員は5段階で自己評価を行った。評価の厳しい職員・意識の高い職員など様々だったが、中間(10月)と期末(1月)の自己評価そして面談の際には、それぞれの目標達成に向けての努力や成果をしっかりと確認することができた。それぞれ評価レベルは違っていたが、今後も個人の評価を大切にしながら、職員全員が前向きに目標を設定し、目標達成に向けて取り組みができるよう、良好な仕組みづくりをしていきたい。

令和5年度も園全体として『子どもから離れてゆっくと休憩を取る』ことを目標として掲げ、定期的にアンケート調査をしながら保育を進めてきたが、どのクラス・ポジションの職員からも毎回「休憩はしっかりと取れている」との回答を得ることができた。しっかりと休憩を取れていることは保育の質の向上にも繋がることと思うので、次年度も全職員で意識をして取り組んでいきたい。

『働きやすい職場づくり』にも力を入れてきた。それぞれの職員から「何が負担になっているのか」「どうしたら負担を軽減することができるか」等の気づきをあげてもらい、書類の作成方法や職場環境等について、改善に向けて取り組みをしてきた。今後も、職員一人ひとりの気づきも大切にしながら『働きやすい職場づくり』を進めていきたい。

## 今後取り組むべき課題

### 保育の質の向上のための計画

#### ◆保育内容として

##### 『子ども主体の保育』

子ども達が自ら考え行動する力を培っていけるよう、保育環境を整えたくえで子どもに寄り添った声掛け・援助を行う。

##### 『多様性を認め合う保育』

それぞれの違いを受け入れ、一人ひとりの良さが活かされるよう、子ども達への声掛けや対応を工夫していく。

##### 『保育のプロセスの見える化』

日々の保育の様子・行事の様子・月の保育の様子など、写真や動画を通して保護者に発信していくことで、園の様子や雰囲気は保護者に知っていただくと共に、日々の保育についての理解や信頼関係の構築へと繋げていく。

#### ◆保育環境として

##### 【選択する機会を多くつくる】

子ども達が自由に選択できる機会を多くつくっていく。また、保育者が考えた内容だけではなく、子ども達に「何がしたいのか」「どのようにしたいのか」などを聞きながら、活動の内容を決めていく。

##### 【安心して過ごす】

保護者と連携しながら、一人ひとりに合った見守り方、声掛けの仕方、援助の仕方を工夫する。

#### ◆保護者・地域共育で計画 ～自園らしさを大切に…地域で必要とされる園づくり～

##### ・みんなが笑顔でホッとできる園づくり

笑顔で気持ち良く挨拶をすること。日々のコミュニケーションを楽しむことで人と人との繋がりをつくっていく。

##### ・子育て支援の充実

子育て支援センターの活動の充実を図り、地域で子育てをしている方々の安全で安心できる、また親子でゆっくと楽しめる居場所づくりを進めていく。

##### ・地域資源の活用

地域の中の保育園であることを意識して地域に様々な資源を活用していく。地域の方と共に楽しめる交流の機会を多くつくっていく。

##### ・パパママ先生の受け入れ

保護者に保育補助としてクラスに入ってもらうことで、園の雰囲気を知っていただくと共に、職員や子ども達・日々の保育に対する理解を深めてもらう。

#### ◆業務、オペレーション改善 ～働きやすさから働きがいへと繋げていく～

##### ・定期的に『職員の負担軽減』や『園の課題』についてアンケート調査を実施する。出てきた課題について検討、改善に向けて努める。

##### ・職員同士、コミュニケーションを大切に日々の保育を行う。子ども一人ひとりの成長や発達を共に喜び合える関係性を築いていく。

※働きやすさ⇒保育の質の向上⇒子どもの最善の利益・働きがいへ

#### ◆SDGs

地球環境を守るための取り組みをクラスごとに考え1年間実践していく。

動画や紙芝居などを用いて、SDGsについて子ども達と一緒に考える時間をつくっていく。